



「眞の観光立国に向けて」 観光庁の取組との連携スタート！

昨年6月から始まった！
観光庁星氏とのご縁

講演者は、ある観光地づくり講演会で、鳥取市文化会館へ向かいました。昨年2022年6月16日の午後、私（淀江の宿今津田中家）は、鳥取県観光戦略課が企画された「ポストコロナ時代の魅有力」と題した講演会で、お話をされていました。星明彦さん（当時、内閣府沖縄総合観光施設推進室長・観光政策調整官兼務）の講演は、「眞の観光立国へ向けて」と題して、とても謙虚で気さくなお人柄が伝わってきました。また、星明彦さんは、「淀江の宿今津田中家」や、「Bisu Daisen」で目一昨こぎしていなかったんだ」と何度もお話ししていました。か嬉しい限りで、思いました。

田中洋子が星さんに送ったメール

本日お時間ギリギリで、二つ折りの名刺を交換させていただいた株式会社ウォリス田中洋子と申します。
今日はとても貴重なご講演ありがとうございました。
お話しいただいたことが自分が目指している方向と同じで、何度も泣きました。（笑）

私は2020年5月に34年住んだ大阪から、鳥取県西部の米子市淀江町の実家にUターンしてきました。父が亡くなり空き家となった築90年近くの実家を20代30代のユニークな若者の協力を得て、2018年12月から3年がかりで延べ200人以上の手でリノベーションされました。テレワークで関西の小企業の経営をサポートする傍ら、昨年の3月からゲストハウス「淀江の宿今津田中家」を「サステナブルな暮らしができるみんなの実家」として運営しています。スポーツタイプのe-bikeを5台置いていて、泊まってきた皆さんと一緒に周辺をサイクリングしたり、農漁業体験などを提供したりしています。

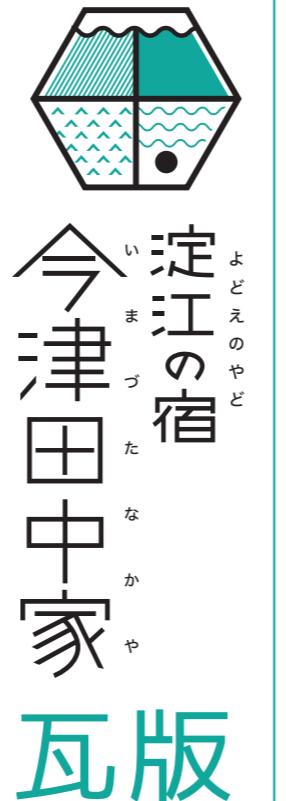
今年の4月に、一般社団法人 Bisu Daisen（美水大山）を設立し、観光地ではないこの地で、体験型・交流型のニューツーリズムの場を地域の方と一緒に共創しようと、取り組みを始めたところです。

古来から引き継がれてきたこの地で、古代から受け入れられる寛容さ、人の温かさなども改めて体感し、必ずここが体験型・交流型のニューツーリズムの先進地域・モデル地域になれる・・・と勝手に（笑）確信しています。

長々と申し訳ありません。また何らかの機会にぜひこちらに泊まってきたいなあ～、いろいろとお話ししたいなあ～、一緒にサイクリングしたいなあ～（私はe-bikeでご一緒します・・・）と勝手に妄想しています。

Facebookでも友達申請をさせていただきました。
迷惑でなければ、Facebookでもよろしくお願いします。

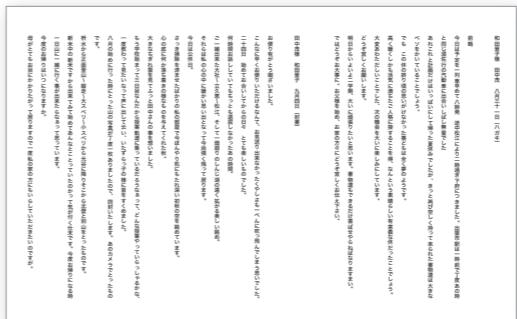
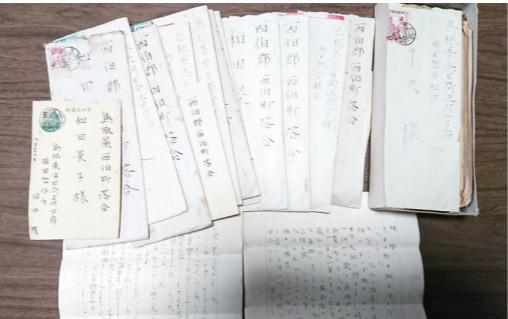
お忙しいこと存じますので、どうぞお返事はお気を遣われませんように。
今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



第6号

2023.09発行

連載 「淀江プロジェクト」物語 [第五話]
「淀江プロジェクト」とは、今津田中家という一軒の古民家を巡る物語である。
第5話：そうだ、離れをゲストハウスにしよう！



作者：田中 洋子
(ウォリス代表取締役。淀江町今津にいる実家を多くの人で訪問して活動)

【第五話】
淀江プロジェクト 物語



淀江の宿 今津田中家
〒689-3401 鳥取県米子市淀江町今津 50-1
TEL : 0859-30-3889
www.imazutanakaya.com

今後はLINEを始め各種SNSにて瓦版を発信していくので、ぜひご登録をお願いいたします。



LINE公式アカウント
お店のポイントが貯まる！



ホームページ
お問い合わせ



f
facebook



相続した土地と建物をどう活用する？

2018年の台風21号を機に、「今後大きな災害が起きたときに大阪からの避難場所として、淀江が有効活用できるかもしれない」と認識を変えた洋子。

その後、父の一周年の法要のため9月14日～16日、弟衆の家族とともに、淀江にまた集合した。父の残したラブレターを洋子が文字おこしをして持参し、残つて、相続手続きを終えて、売れそうにないということで一年そのままにしていた土地と建物をどうするか…という話題になる。

ここで育った私たちから見たら交通の便も悪くてとても中途半端な所だと思っていた。先日大阪から遊びに来た友人親子は『ものすごくいい所だ』『羨ましい』つて何度も言つてくれた。たしかに、洋子の大学時代には、洋子本人が帰省している間に、もしかわらず、アーチェリー部の仲間がスキーのために離れて何日も泊まつたり、衆の先輩も同じくスキーディケ月も滞在したらしい。そんな会話から、改めて、当時の離れは気軽に泊まれるスペースだったことを認識した。

離れのゲストハウス化に向けて動き出す！

「社会人になってからもいろんな人が遊びに来てたよね、ここ、ゲストハウスしてもいいかもね！母屋は片付けが変だからそのまま置いておくことに、まずは離れをゲストハウスにしようか。ウォリス（洋子が2008年に設立した株式会社）で運営する形でもいいかもしれない。」

法務局に登記相談に行き、その足で「鳥取県西部総合事務所」の生活環境局環境・循環推進課の民泊相談窓口を訪問。担当の遠藤さんがとても親切にゲストハウス開設の流れを教えてくださり、「民泊」と「簡易宿所」という大きさは2つの申請方法があることを知る。9月15日は洋子の出身校米子東高校のGOGO（55歳）同窓会が重なり、ちょうど帰省していたので窓口を訪問。加できたのだが、同級生の旦那様が一級建築士だということが分かり、翌日の父の法要の後に、離れを見に来てもらえたことになった。内装・外装工事に200万円くらいかかる…といふことで、正式な見積もりをだしてもらうことになり、この3日間で離れのゲストハウス化に向けて急速に動き始めた。

9月15日は洋子の出身校米子東高校のGOGO（55歳）同窓会が重なり、ちょうど帰省していたので窓口を訪問。担当の遠藤さんが一級建築士だといふことで、正式な見積もりをだしてもらうことになり、この3日間で離れのゲストハウス化に向けて急速に動き始めた。

法務局に登記相談に行き、その足で「鳥取県西部総合事務所」の生活環境局環境・循環推進課の民泊相談窓口を訪問。担当の遠藤さんがとても親切にゲストハウス開設の流れを教えてください、「民泊」と「簡易宿所」という大きさは2つの申請方法があることを知る。

